

白ねぎ管理情報 No1

1 育苗ハウスの雪害対策

雪害対策を事前に行うなどご注意ください。また、ビニールハウスの倒壊は上からの場合と横からの場合があるので下記のとおり管理をお願いします。

対策1：中柱による補強と屋根雪の滑落促進（上からの倒壊対策）

中柱による支柱の補強は、3～4m程度の間隔で取り付けます（図1）。この時、支柱の下に、板やブロックなどの台石を敷いていないと、雪の重みで支柱が土中に沈み込み、バランスを崩して倒壊につながる場合があります（図2）。また、天井と支柱が外れないように工夫しましょう。

また、降雪が続き天井の雪がサイドに落雪し、さらに降雪が続くと天井の雪が落雪しなくなり倒壊の危険性が高くなります（図3）ので、天気予報に注意し、こまめな除雪をしましょう。

さらに、屋根雪の滑落を促進するため、ビニール表面のネット・遮光資材は取り除いておきましょう。

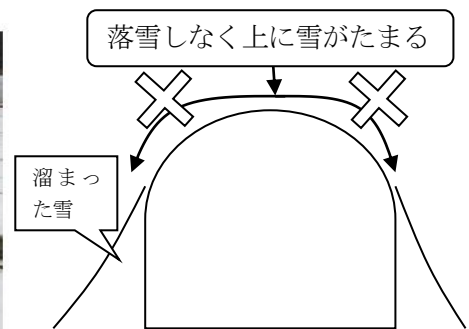
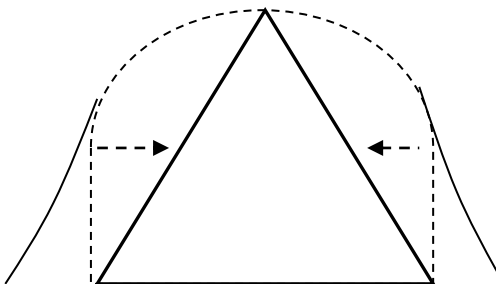


図1 中柱（つかえ棒）を設置したハウス 図2 中柱のバランスを崩して倒壊したハウス 図3 ハウスサイドの雪が溜まると落雪しなくなる

対策2：ハウスサイドの除雪（横からの倒壊対策）

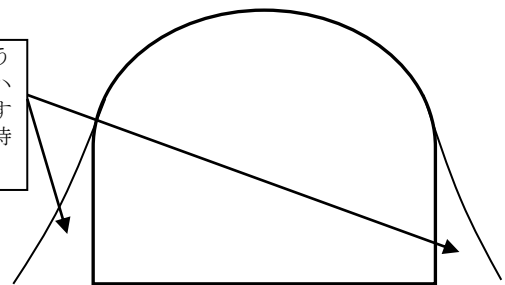
ハウスサイドに多くの雪が溜まると、両側の圧力でサイドから倒壊することがありますので、ハウスサイドに雪が溜まりだしたら、肩まで雪が溜まる前に速やかに除雪しましょう。

また、除雪の際は、片側だけ除雪すると雪のある方からハウスが押され変形するので、必ず2人組で両ハウスサイドを同時に除雪しましょう。



ハウスサイドに多くの雪が溜まると内側へ圧力がかかり内側に向かって倒壊する

除雪を片側だけ行くと雪のある方からハウスが押され変形するので必ず両脇同時に行うこと



ハウスサイドの除雪は必ず二人組で両側を同時に行う

※対策 1、2 などではハウスサイドの除雪が間に合わなく、最新の気象情報による積雪深の予報がハウスの耐雪強度を大きく上回ると想定される場合は、事前に被覆資材を切断除去する。危ないので 2 人以上で作業しましょう。



パイプハウスの骨材を守るためにハウスビニールを切断したハウス

2 播種管理の要点について

詳細は「しろねぎ」栽培マニュアル 9～11 ページを参照してください

○収穫時期ごとの播種時期と定植時期の目安

播種日	定植日	収穫可能時期	品種構成例	チェーンポット 1 穴 あたり播種粒数
1 / 5	4 / 1	8 / 1 ～ 8 / 14	夏山一本太	2
1 / 25	4 / 16	8 / 15 ～ 8 / 31		2
2 / 11	4 / 23	9 / 1 ～ 9 / 14	夏山一本太：項羽一本太=5:5	2.5
2 / 25	5 / 1	9 / 15 ～ 9 / 30		2.5
3 / 10	5 / 8	10 / 1 ～ 10 / 20	夏扇 4 号もしくは項羽一本太：関羽一本太=5:5	3
3 / 20	5 / 10	10 / 21 ～ 11 / 10	関羽一本太のみ	3
4 / 5	5 / 25	11 / 11 ～ 11 / 30	関羽一本太のみ	3

収穫遅れにならないように計画的な播種計画としてください。

夏山一本太、項羽一本太、夏扇 4 号、関羽一本太の順で生育が早いのでこの順番で播種、定植を行いましょう。

*収穫遅れにならないように計画的な播種計画としてください。

*R4 産について、降雪の恐れのある 12 月に未収穫の圃場が見られるので播種計画は特に注意してください。

3 育苗管理の要点について

詳細は「しろねぎ」栽培マニュアル 11～14 ページを参照してください)

マニュアルには、ハウス内にはトンネルを設置することが記載されていますが、低温注意報や霜注意報の発令に注意（17 時発表の気象台予報を天気予報、データ放送、インターネットを参考）し、発令時は夜間にハウス内トンネルの上に、不織布（ラブシート、パオパオなど）を展張しておくで安心です。心配な方は、一ハウスに石油ストーブ 1 台を設置し、一番気温が下がる早朝まで小さい炎で点火する（ハウス内の空気がわずかに動く程度の加温）とさらに安心です。

農薬使用基準(使用回数、時期等)の遵守と作業管理の栽培記録簿への記帳をお願いします。

問合せ先：J A アルプス営農部 営農企画課
富山農林振興センター園芸振興班

Tel 076-472-5480
Tel 076-444-4523